

平成 30 年度 早生樹現地検討会

実施日：平成 30 年 9 月 25 日（火）

実施場所：秋田県北秋田市綴子綴子沢外 1 国有林 2021 林班い 3 小班

参加者：当署職員、森林技術・支援センター職員、当署管内の森林事務所と管内自治体職員 計 21 名

現在、林業収益の増加や採算性の向上を図るために低コスト、短伐期林業が必要とされており、その方法のひとつとして生長速度の早い広葉樹（＝早生樹）の利用が挙げられます。当署管内の国有林では、森林技術・支援センターによる「早生樹を使用した施業モデルの構築」をテーマとした技術開発の一環として、平成 29 年度から早生樹の植栽試験地を設けています。そこで、今後の施業の検討や早生樹の苗木供給について関係者間で情報共有・意見交換を行うことを目的とした現地検討会を開催しました。

現地の様子と交わされた意見

当該試験地には 216 本のユリノキと 72 本のヤマハンノキが植栽されています。現地では雪で折れたと思われる植栽木も散見されましたが、両樹種とも生長の早い個体では周囲の雑草木よりも樹高が高いものも見られました。



左：現地検討会及び早生樹の取組についての参加者への説明の様子

中央：現地視察の様子

右：植栽したユリノキ（後日撮影）

現地を見た参加者の間では、次のようなことについて情報共有・意見交換がなされました。

- ・両樹種とも生長が早いので、スギ等よりも大幅に下刈の省略を期待できるのではないか
- ・早生樹においても収穫時の高性能林業機械の利用を検討し、またそれを想定した施業を行う必要がある
- ・今後 5-10 年程度の単位で生長量を調査し、当地域における両樹種の生長の速度や過程を明らかにすべきである
- ・早生樹の苗木価格は通常より高いのか、またどこで販売しているのか
- ・ユリノキやハンノキ以外の樹種について、センダン、チャンチンモドキ、コウヨウザン等は西日本等のより南西の地域で分布・利用されているので当地域での利用は難しいと考えられるが、イチヨウは北海道から九州までで育つので当地域でも利用できるかもしれない

当該試験地では今後も植栽木の生長等についての調査を継続し、早生樹で構成される森林の施業方法の検討等に役立てようと考えています。